

ぜん しん くみ れん
全信組連

なるほど

ガイドブック

2004



ごあいさつ

いつも信用組合をご利用いただきありがとうございます。

私ども全信組連(ぜんしんくみれん)は、

安定した経営と高い自己資本比率を維持し

全国の信用組合を様々な面からサポートする信用組合の中央金融機関です。

このガイドブックは、みなさまの最も身近な金融機関である

信用組合を強力にサポートする全信組連の役割や経営内容を

みなさまにもっと知っていただきたいとの願いから作成いたしました。

ぜひご一読いただければ幸いです。

信用組合ともども末永いお付き合いをお願いいたします。

平成16年7月

全国信用協同組合連合会

も く じ

- Q1 全信組連ってどんな金融機関なの?..... 1
- Q2 資金量と運用はどうなっているの?..... 2
- Q3 経営の健全性はどうなっているの?..... 3
- Q4 どれくらいの利益をあげているの?..... 4
- Q5 信用組合の組合員向けのサービスは行っているの?..... 5



Q 1. 全信組連ってどんな金融機関なの？

A 全信組連は、全国の信用組合が設立した信用組合のための中央金融機関です。
ぜんこくしんようきょうどうくみあいれんごうかい
正式名称は「全国信用協同組合連合会」といいます。

全信組連は、4つの役割で信用組合をサポートしています。

その1 信用組合間の資金仲介を行っています。

信用組合は、お客さまである組合員の事業や職業、季節、地理的な環境によって資金にゆとりのある時期、必要な時期に違いがあります。

全信組連は、資金にゆとりのある信用組合から預金を預かるとともに、資金を必要とする信用組合に融資することで、全国の信用組合が円滑な業務運営を行えるよう努めています。

その2 信用組合の余裕資金を運用しています。

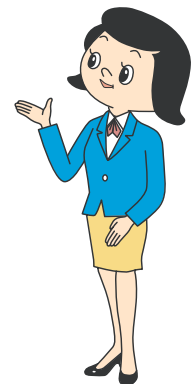
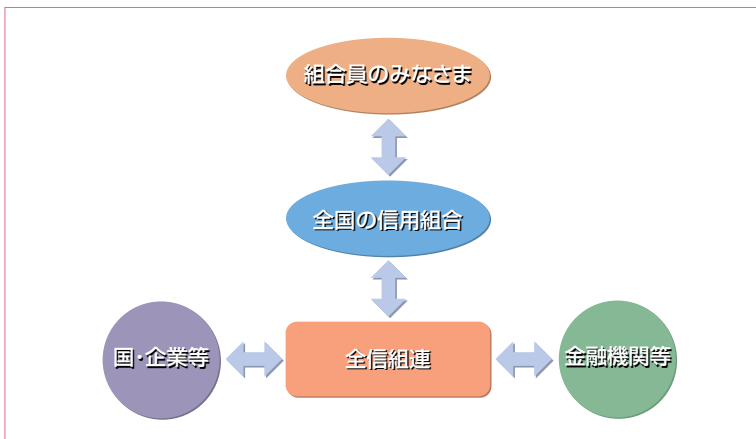
全信組連は、全国の信用組合から余裕資金を預金として受入れ、国債や社債等の有価証券や貸出等で運用し、利息を支払うことで、信用組合の余裕資金の効率的な運用支援に努めています。

その3 信用組合がみなさまに銀行と同じ金融サービスを提供できるようサポートしています。

全信組連は、信用組合のお客さまが銀行と遜色のない各種の金融サービスを受けることができるよう信用組合の業務をサポートしています。

その4 信用組合の信用力向上等に努めています。

全信組連は、みなさまが信用組合と安心してお取引いただけるよう、信用組合の経営状況を把握し、必要に応じて、助言・指導や資本増強支援を行うなど、信用組合の経営力と信用力の向上に努めています。



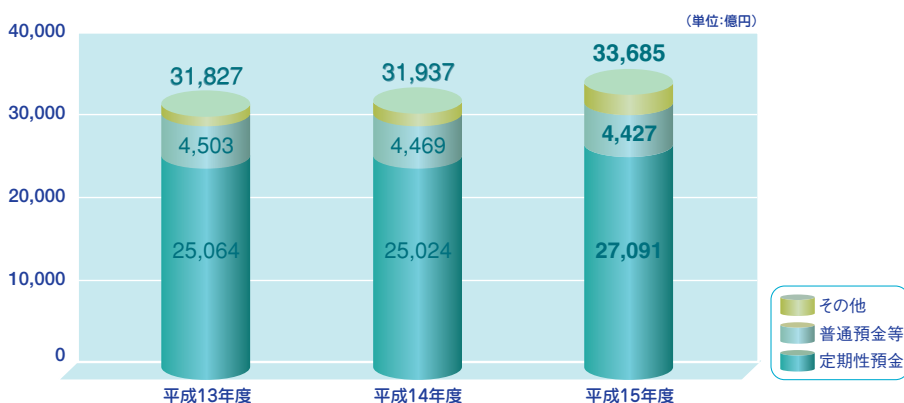


Q 2. 資金量と運用はどうなっているの？

A 定期預金を中心に3兆3,685億円の資金をお預りしています。
お預りした資金は、国債や安全性の高い社債等の有価証券や貸出などで運用しています。

資金量

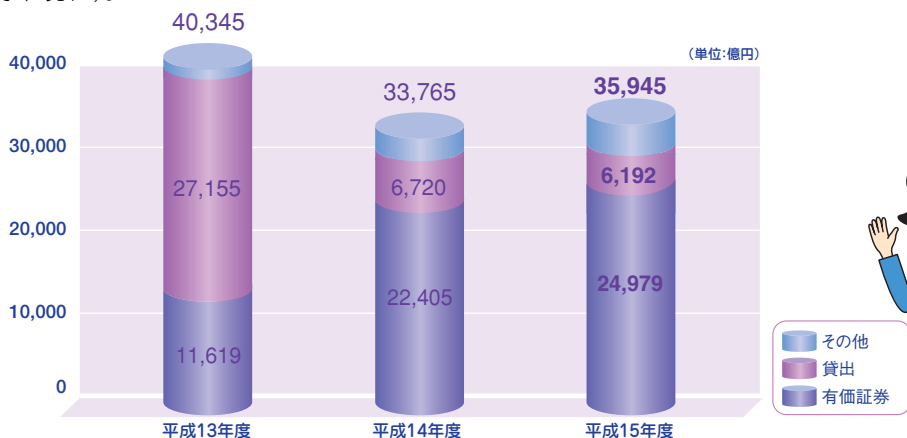
全信組連は、信用組合をはじめ、多くの機関・団体等から3兆3,685億円の資金を、主に定期預金として受入れています(平成16年3月末現在)。



「その他」には、「外貨預金」、「譲渡性預金」と信用組合の短期運用のために受入れている「組合短期資金」が含まれています。

運用

全信組連は、信用組合・組合員のみなさまをはじめ一般企業等に6,192億円の貸出を行うとともに、2兆4,979億円を国債や安全性の高い社債等の有価証券で運用しています(平成16年3月末現在)。



「その他」には、「コールローン」や「譲渡性預け金」など短期運用商品が含まれています。





3. 経営の健全性はどうなっているの？

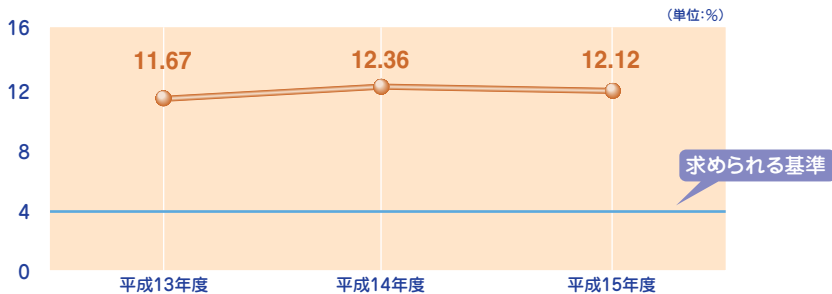


A 自己資本比率は、12.12%と国内基準の4%を大幅に上回っています。また、不良債権比率も低い水準にあります。

自己資本比率

全信組連の自己資本比率は12.12%(平成16年3月末)と国内のみで営業を行う金融機関に求められる基準(4.0%)を大幅に上回っています。

また、自己資本の大半(95.7%)は、出資金や準備金などの安定・確実な資本で構成されています。



[自己資本比率]

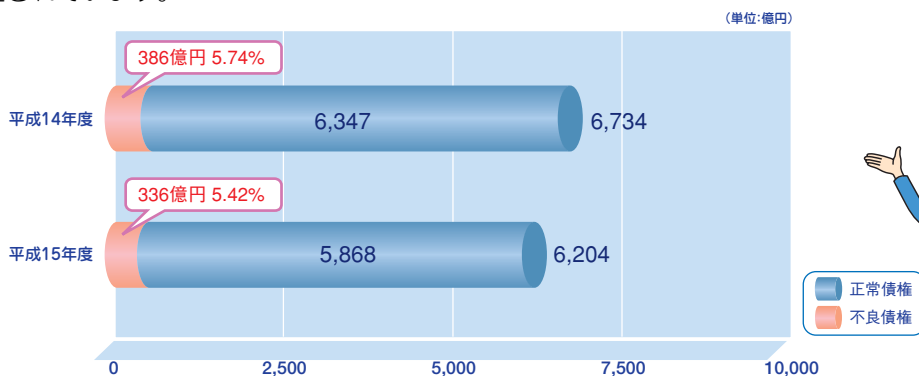
金融機関経営の健全性をはかる指標のひとつです。

国内のみで営業を行う金融機関は4%以上を維持することが求められています。

不良債権の状況

全信組連の不良債権は336億円と前年度比50億円の減少、不良債権比率は5.42%(平成16年3月末)と0.32ポイント低下しました。

なお、これら不良債権については「担保」や「保証」等によってそのほとんど(94.32%)が保全されています。



[不良債権]

毎月の返済が遅れたり滞り等、不良化した貸出金等のことです。

不良債権が貸出金等に占める割合を不良債権比率といいます。





Q 4. どれくらいの利益をあげているの？

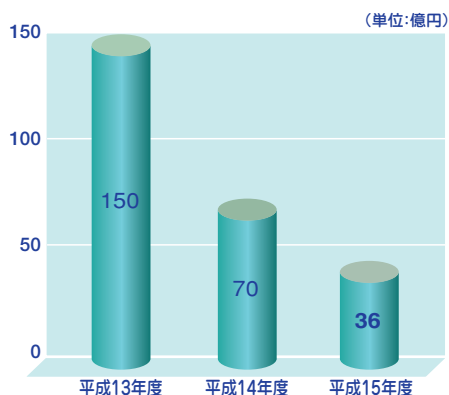
A 平成15年度は51億円の当期純利益を計上いたしました。

業 務 純 益

平成15年度の業務純益は、資金運用収益の悪化により前期比34億円減の36億円となりました。

[業務純益]

金融機関本来の活動によって得られる利益のことで、貸出・有価証券運用等により受け取った「利息・配当金」やサービス提供の対価として受け取った「手数料」などから、預金をはじめとする「支払利息」や業務上の「経費」などを差し引いたものです。

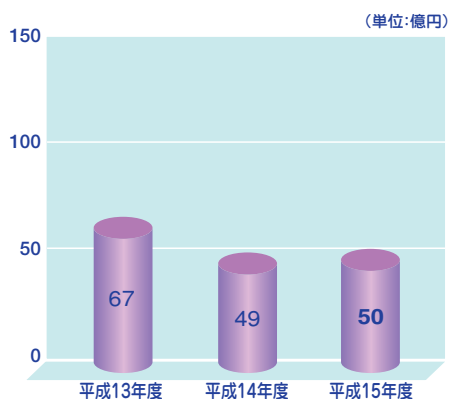


経 常 利 益

平成15年度の経常利益は、前期とほぼ同額の50億円となりました。

[経常利益]

金融機関が通常行う業務から得られる利益のことで、株式の売買や引当金の積増などによる損益を加減した利益のことで。

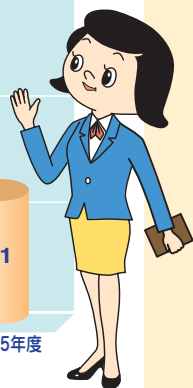
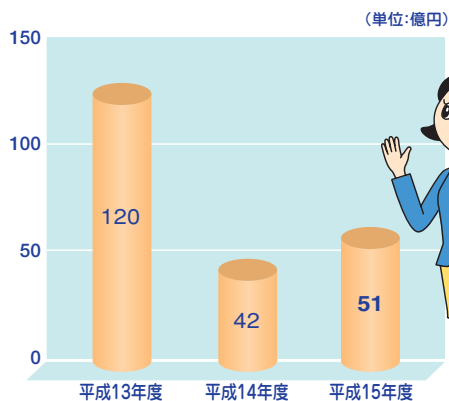


当 期 純 利 益

平成15年度の当期純利益は、前期を若干上回る51億円となりました。

[当期純利益]

「経常利益」にその年限りの特別な利益や損失を加減して、法人税等の税金を控除した後の最終的な利益のことで。





5. 信用組合の組合員向けのサービスは行っているの？



全信組連は、組合員のみなさまに信用組合を通じてさまざまなサービスを提供しています。

代理貸付

信用組合を代理店として、組合員のみなさまに事業資金や住宅資金をご融資しています。

商品種類	金利	お使いみち	ご融資期間	ご融資金額
事業資金	変動	運転・設備資金	～20年	8億円まで
	固定		～10年	
	スーパー ^総 固定		～5年	
住宅資金	変動	住宅・宅地の購入、住宅の増改築など	～40年	6,000万円まで
	固定金利特約付		～20年	2,000万円まで
	固定		～35年	6,000万円まで
	段階金利付		～5年	300万円まで
フリーローン	固定	暮らしの資金として自由にご利用いただけます。	～5年	1億円まで
大型ローン	変動	自由にご利用いただけます。	～30年	1億円まで

外国為替

信用組合を通じて外貨預金の受入れや外国送金、輸出為替の買取り、輸入信用状の発行などを取扱い、組合員のみなさまのさまざまなご要望にお応えしています。



国債・投資信託の窓口販売

組合員のみなさまの資産運用ニーズにお応えするため、長期国債をはじめ個人向け国債や投資信託など、さまざまな運用商品を取り揃え、信用組合の証券窓販業務をサポートしています。

確定拠出年金

組合員のみなさまが確定拠出年金制度を利用できるよう、運用対象の商品として、確定拠出年金用定期預金と投資信託をご用意しています。

[確定拠出年金]

お客さま自身が運用商品を選び、その運用成績によって将来の年金額が決まる制度です。



信用組合を2つの制度でバックアップ

全信組連は、みなさまに信用組合と安心してお取引いただけるよう、2つの制度で信用組合をバックアップしています。

全国信用組合保障基金制度

信用組合業界では、合併等を行う信用組合に対して資金援助を行うなど、業界の信用保持を図ることを目的に、928億円の「保障基金」を設けており、全信組連がその運営を行っています。

信用組合経営安定支援制度

全信組連は、今後も信用組合が経営の健全性を確保し、みなさまから信頼される金融機関であり続けるために、「モニタリング制度」、「監査・指導制度」および「資本増強支援制度」の3つの制度で構成される「信用組合経営安定支援制度」を運営しています。

I モニタリング制度

信用組合から経営資料の提出を受け、経営内容を分析し経営上の問題点の有無等をチェックします。

II 監査・指導制度

信用組合業界の経営指導・監査機関として「全国信用組合監査機構」を設け、必要に応じて信用組合への実地監査を行い、適切な助言・指導を行います。

III 資本増強支援制度

必要に応じて信用組合への資本増強支援を行い、自己資本比率の向上を図ります。

信用組合経営安定支援制度

I モニタリング制度

II 監査・指導制度

III 資本増強支援制度

全
信
組
連

① 経営資料の提出

② 経 営 分 析

③ 実 地 監 査

④ 助 言 ・ 指 導

⑤ 資 本 増 強 支 援

⑥ 定 期 報 告

信
用
組
合



全国信用協同組合連合会 総合企画部経営企画課

〒104-8310 東京都中央区京橋1-9-1 TEL.03-3562-5115

<http://www.zenshinkumiren.jp>

平成16年7月発行 本誌は再生紙・大豆油インキを使用しています。

